

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	市民クラブ (中道博武、鈴木伸之、是枝貴裕)
視察・研修名	(1) 徳島市「ふるさとワーキングホリデー」 (2) 神山町「まるごと高等専門学校」 (3) 美馬市「人生100年時代～アクティブシニア」
視察・研修の 目的	事業実施に至る背景・経緯、概要、運用方法、成果、課題等について
目 時	令和5年11月14日(火)～16日(木) ※行政視察＝11月15日・10時～16日・正午
視察研修の 概 要	<p>(1) 徳島市「ふるさとワーキングホリデー」</p> <p>【日時】 15日(水) 10:00～11:50</p> <p>【担当】 議会事務局 局長 宮本和幸 氏 議会事務局議事調査課 主事 三井健太 氏 企画制作部企画生活課 課長 小原和浩 氏 (兼SDGs推進室長) 企画制作部企画生活課 係長 江淵和晃 氏 (兼SDGs推進室)</p> <p>①経緯 人口減少の推移を鑑み、他地域からの移住定住を促進するため、平成31年4月に「移住交流支援センター」を設置。その後、保育士の確保対策の一環として保育施設の就労体験を実施するにあたり、移住定住策と有機的に結び事業効果を高めるよう令和3年度から「ワーキングホリデー」を開始</p> <p>②概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就労体験期間は1週間～2週間 ・ 就労時間は1日8時間。勤務開始終了時間は使用者側で設定 ・ 就労のほか行事への参加、市内観光、地域交流会等を取り入れ、市の魅力や暮らしの情報発信に努めている ・ 期間中の住居は斡旋せず参加者個人の自由としている ・ 参加者には就労費と交通費を支給（就労費（補助金）は8,000円程とし事業所に支払いをしている） <p>※ 実施当初の就労体験は保育施設のみであったが、移住定住の促進を図るため令和4年度より藍染や木工等の伝統産業を加える。 対象は一般人としているが、大学生の参加を重点に8月下旬に実施</p> <p>③運用（申込手順）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画、対応等は「移住交流支援センター事務局」にて実施（委託） ・ 申し込みは、Webサイトのフォームにて受付 ・ 参加者、受入事業者、事務局、市職員合同での面談を実施 <p>④成果 本格的な事業開始が令和4年度と浅いこともあり、この間の移住定住者は現時点では皆無</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

視察研修の
概要

⑤課題

移住定住を促進する傍ら、保育士や伝統産業はもとより、地域の様々な業種で高齢化や担い手不足が見受けられ、一層就労者の確保が喫緊の課題となっている。

⑥その他

ワーキングホリデーは全国的に展開され、取り組んでいる自治体も数多くあることから、徳島市の特徴として農業体験など多くの市町村が行っている競争率の高い設定を避け、市の伝統産業の就労を主として設定している点に工夫が見受けられる。また期間中は観光地巡りやイベントなど地域の方との交流を深める機会を設けることで、たとえ移住定住に結びつかなくとも、参加者が体験をもとに周囲に徳島市の魅力を発信するといった、観光業の活性化をはじめとした地元経済への波及効果が期待でき、非常に参考となる取り組みであった。

(2) 神山町「まるごと高等専門学校」

【日時】 15日(水) 14:00~15:40

【担当】 総務課企画調整係 係長 坂井 義隆 氏

①経緯

人口が5,000人を下回り高齢化率も54.1%と過疎化が進む中、その対策として、全町内に光ファイバーを敷設するなどインターネット環境を整える大規模なインフラ整備を実施。それにより2010年に民間企業(Sansan(株))がサテライトオフィスを設置する。その後、参入企業の縁などにより「ものづくり」をテーマにした高専プロジェクトが2019年に発足され、2023年に私学による5学年生の専門学校が開校した。

②概要

- ・ 開校：2023年4月
- ・ 目的：実践的・創造的技術者(起業家)の養成
- ・ 学科：「デザイン・エンジニアリング学科」
- ・ 学生：200人(40人×5学年)を予定 ※2023年度は44人入学
- ・ 就学スタイルは全寮制

※ 5年間の一環教育として高校～大学の7年間を凝縮

③運用(運営管理等)

- ・ 完全な私立学校とし、運営管理に関わる町の補助等はなし
- ・ 教員採用等は学校側で全て行い、教育委員会の関与はなし
- ・ 町の支援としては旧中学校校舎(現学生寮)及び新校の建設用地を無償譲渡(旧校舎の用地は無償貸与)

④成果

本年4月に開校したばかりで、学生の進路動向等の結果は現時点でなし。町内に若者が居住したことで、経済的効果や賑わい及び移住定住に期待。

視察研修の
概要

⑤課題

現時点での課題は特にはないが、教員やスタッフが居住する家屋等が町内では不足しており、経済効果等を考慮し町外からの長距離通勤の解消が必要

⑥その他

訪問した高専は時代背景を考慮した町のインフラ整備が功を奏し、民間事業所が様々な繋がりにより立ち上げた成功例である。

行政が直接私学に介入することはほぼないため、今回のケースを参考にした行政への働きかけは難しいが、ただ、デジタル技術の発達など社会の変革を的確に読み取った“まちづくり”を進めることは、まちの発展に繋がる一つの大事な要素として捉えることができた。

なお、本校は全国から399人の応募（県外は約60%）があり、SNSの情報発信力に改めて感心させられた。

(3) 美馬市「人生100年時代～アクティブシニア」

【日時】 16日（木） 10:00～12:00

【担当】 美馬市議会 副議長 前田良平 氏

議会事務局 次長 大島康作 氏

美来創生局 美と健康のまち推進課 課長 大島直子 氏

経済部 観光交流課 事務主任 大森秀樹 氏

①経緯

昨今の人口減少や高齢化率（40.7%）の推移、さらには国の「人生100年時代」の提唱を受け、生涯活躍をコンセプトに健康寿命の延伸を目指す大体的な施策が必要とし、令和4年4月に活動拠点施設「小星ベース」を開設。

労働力不足が顕著にある昨今、高齢者の健康維持及び社会参画に着目するとともに、これら事業を起点とした経済的効果やまちの賑わい創出を目指すとしている。

②概要

- ・ 令和4年4月に活動拠点施設「小星ベース」を開設
施設内での軽運動等の事業はもとより、市内各所で様々な事業を展開
- ・ 職員数は6人が常駐
(正職員4人、地域おこし協力隊1人、ANA派遣1人＝3年)
- ・ 施設内の健康体操等をはじめ生活習慣病予防や身体機能の維持・向上を目指す各種事業を展開
- ・ 事業メニューによっては民間企業との共同実施もあり
(美を通じた外出促進事業など)
- ・ 市内各所で行われている「いきいき体操」と連携
- ・ 地域おこし協力隊の配置により、イベントや環境美化活動と連動した企画を立案
- ・ 情報発信の手段としてSNS上での動画配信を実施

視察研修の
概要

③運用（運営管理等）

現行は市直営で運営。ただし、今後は指定管理者制度も検討

④成果

施設利用者からはSNSや文書を通じて高評価が寄せられている。
数値的な評価は難しいが、今次、介護保険料の減額に繋がった。

⑤課題

現時点で施設運営に関わる課題は特になし。

今後は常時、各種事業の参加者拡大が課題になると考えている

⑥その他

当市の高齢者の引きこもり対策及び健康寿命延伸の取組として、特に注視すべき点は「美」をテーマにしたところにある。

地元の美容師を講師に招きメイクや頭髪、ネイルの手入れなどの美容教室の実施に加え食生活改善の指導教室等、「美」に重きを置き事業を展開しているところが非常に興味深い。なお美容教室は男性専用の回も実施し好評を博している。

さらに、ウォーキングとまちのゴミ拾いを融合するなど、健康促進事業を各種行事と有機的に結びつけるアイデアも参考になる部分である。

『“きれいになる” → “出かけたくなる” → “活動的になる”』という考えで「美」に着目した施策・実践は、しっかりと意識が地域に根付けばいずれ大きな成果に繋がる可能性は十分にあるという印象を受けた。

■脇町 訪問

美馬市の行政視察後、脇町（2005年に美馬市と合併）を訪問

砂川市の「街頭もちつき」発祥の地として、地元「もちつき保存会」の方との面談及び町内の観光名所“うだつの町並み”を散策

なお、木場職人として出稼ぎに来た脇町出身者により、明治35年に砂川木挽工場が操業し、これが後のサンモク工業に発展している。

※その他、詳細は別添研修資料のとおり

以上